

今春、町独自に国際貢献をめざす「国際化の推進に関する条例」をつくらせた岡山県御津郡加茂川町は、町職員が海外の紛争地域を視察した経験を子どもたちに語り聞かせ、八月から三人の職員が、紛争が続く旧ユーゴスラビアへ向かうなど、具体的に動きだした。

(岡山支局・加賀谷貴春)



加茂川町は人口六千七百  
人。農業が主要業の、過疎  
の町だ。

民生課長補佐の柳原富美  
男さん(右)と、特産品を製  
造販売する加茂川せんたくろ  
う公社事務課長の石坂公宏  
さん(左)は条例制定に先立  
って昨年七月、内職が続く  
アフリカ・ソマリアに二週  
間派遣された。

「そこへ何を見えたのか。  
」  
「あの缶詰などが足り  
ないと思っていました  
が、ベッドやシーツなど、  
治療以前の基本的な物資が  
なかったんです」と柳原  
さんはいる。

幹線道路から外れると、

## 国際貢献の町 めざす 岡山・加茂川町



いづれ地帯を随ひか分からな  
い。街は想像以上に荒れて  
いた。現地へ診療活動をし  
てくる、アジア医師連絡協  
議会(AMDA)に協力  
し、現地スタッフの給料を

配ったりした。

石坂さんは、帰国後、町  
の中学校で講演した。

「私たちにも何ができま  
すか」

女生徒の質問に、お金を  
かけないで協力できる方法  
を提案した。女生徒は、校  
友に呼びかけ、自分の手  
で段ボール六箱に毛布やシ

ーツを詰めて、ソマリアに  
送った。

旧ユーゴで行くことにな  
ったのは、地域活性化推進課  
に医師を派遣し、他の国の  
医師も活躍しています」と

長補佐岡田清さん(右)と町  
教委課長補佐の西田さん  
(左)。

教養課長補佐の西田さん  
(右)。スイスのジュネーブ  
にある世界保健機関(WH  
O)を訪れ、その後、旧ユ  
ーゴのクロアチアのザグレ  
ブの診療にあたった。

西田さんは去年八月、カ  
ンボジャを訪れ、悪性マラ  
リアにかかっている子ども  
や地帯で足を失った老人ら  
の治療にあたった。

## 土木技術など提供

# 条例作り職員海外へ



旧ユーゴを視察する岡田さん(左)と西田  
さん(右)岡山県御津郡加茂川町役場で

ブで、非政府組織(NGO)の協力態勢を現地で見  
る。岡田さんは「私たちのよ  
うな小さな町でのような  
貢献ができるか、見て、聞  
いて、考えてきます」。西  
田さんは「専門の教育に限  
らず、何でも吸収するもの  
です」。

条例は、海外の被災地や  
国際機関に町職員を派遣  
し、町がもっている土木道  
路舗装や土木工事などの技術  
を活用することを盛り込ん  
でいる。

隣の岡山市に本部がある  
AMDAは結成十年を迎  
え、アジアに十五の支部を  
置いている。海外の災害を  
受けた地域に医師を派遣  
し、医療品を送る活動が主  
く。当面、加茂川町はAM  
DAの活動地に職員を派遣  
する。

AMDAの代表は菅波内  
科医院を経営する菅波茂さ  
ん(右)。全国三百人の医  
師がこの会に加わり、各地  
に医師を派遣し、他の国の  
医師も活躍しています」と  
いう。

菅波さんは去年八月、カ  
ンボジャを訪れ、悪性マラ  
リアにかかっている子ども  
や地帯で足を失った老人ら  
の治療にあたった。

「多々へのN  
GOは、問題  
把握型の活動  
をし、まず  
が、これからは問題解決型  
の活動をして行く必要があ  
ります。自治体はききに問  
題解決型の団体なんです」  
と

AMDAが中心になっ  
て、十月二十日から岡山市  
に世界のNGOが集まる  
「14おかやま国際職員NGO  
Oサミット」を開く準備  
を進めている。自治体の  
ほか、五十力国、六十団  
体に招待状を出した。事務  
局長は参加者のホームステイ  
の手配などに追われてい  
る。

菅波さんは「岡山県民  
は、医療、教育、宗教とい  
った文化や福祉に、敏感に  
反応します。岡山の精神風  
土に合っていると聞いてま  
す」といふ。

難民キャンプの子をたを集団診療するAMDAの医  
師10002年12月、ソマリアのアリヤデキャンプで